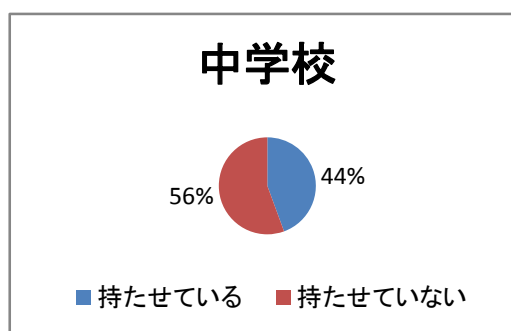
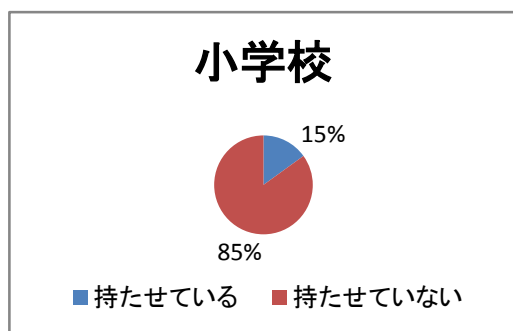


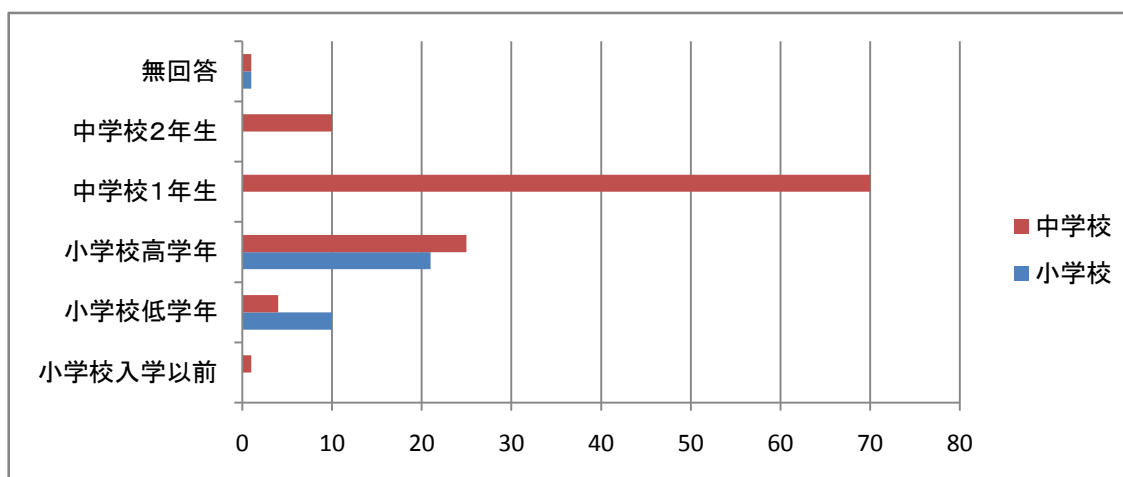
【設問1】お子さんに専用の携帯電話をもたせていますか？



<分析および考察>

子どもに専用の携帯電話を持たせている割合は、小学5年生保護者では15.0%、中学2年生保護者では44.4%である。小学生では、児童が「持っている」と回答した割合に近かったが、中学生では生徒が「持っている」と回答した割合より低くなった。これは、保護者の提出率が生徒に比べ低く、未提出者の中に「持たせている」保護者が含まれていると考えられる。

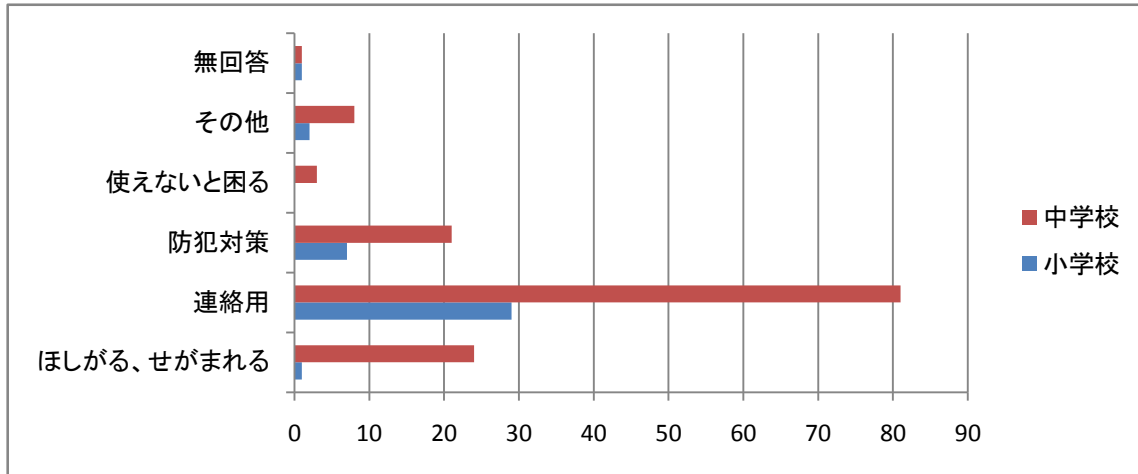
【設問2】いつ頃から携帯電話をもたせましたか？



<分析および考察>

小学5年生保護者では、「小学校低学年で持たせた」が31.3%、「小学校高学年」が65.6%、中学2年生保護者では、「小学校低学年で持たせた」が3.6%、「小学校高学年」が22.5%、「中学1年生」が63.1%、「中学2年生」が9.0%である。少数ではあるが、「小学校入学以前」という回答もあった。中学生保護者の回答より、中学1年生で携帯電話を持たせている割合が高いことから、中学入学がひとつの契機となっていることが推測できる。また、最近の傾向では、小学校低学年などの低年齢期から携帯電話を持たせることが高まりつつあるように思われる。

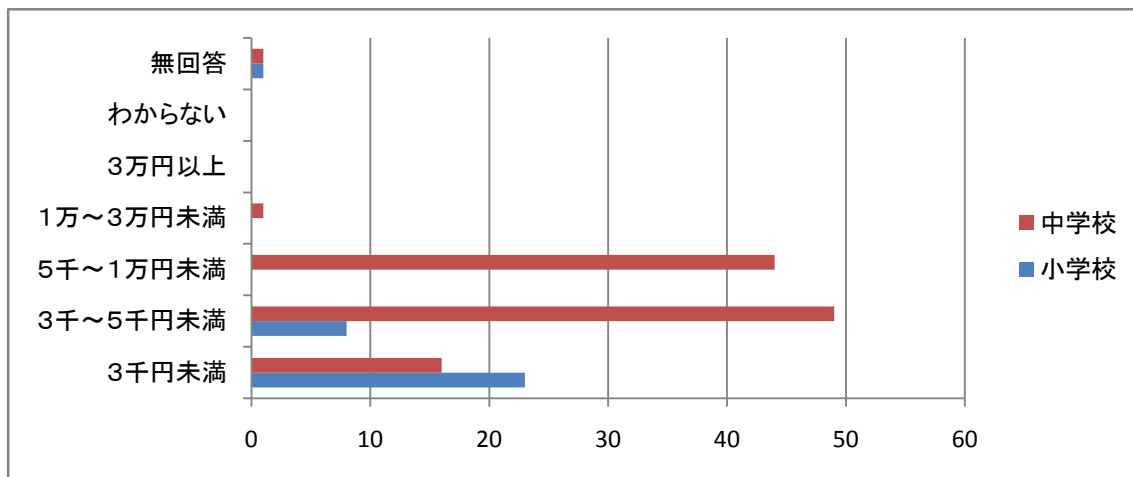
【設問3】携帯電話を持たせている理由は何ですか？



<分析および考察>

主たる理由として答えを1つ求めたが、複数の回答が数多くあったためそのままの数字で集計した。小・中学校とも「連絡用」が一番多く、小学5年生保護者では72.5%、中学2年生保護者では58.7%である。中学生では、「子どもがほしがる、せがまれる」が17.4%、「防犯対策」が15.2%である。中学入学が携帯電話を持つひとつの契機と考えられる。携帯電話のコミュニケーションツールとしての活用が広がり、特に中学生期に子どもらの要求も強まり、保護者が「せがまれ」やむなく持たせるといった現状もあるかも知れない。また、中学生になると交友関係や行動範囲も広がり、そうした中で防犯対策としての活用の意味合いも強まると考えられる。その他の回答では、休日の地域スポーツクラブ連絡用、緊急時の連絡用などがある。こうした機会に安易に携帯電話を持たせるのではなく、きちんと子どもとの間でフィルタリングをすることや約束ごとを決めるなどの確認が大切である。

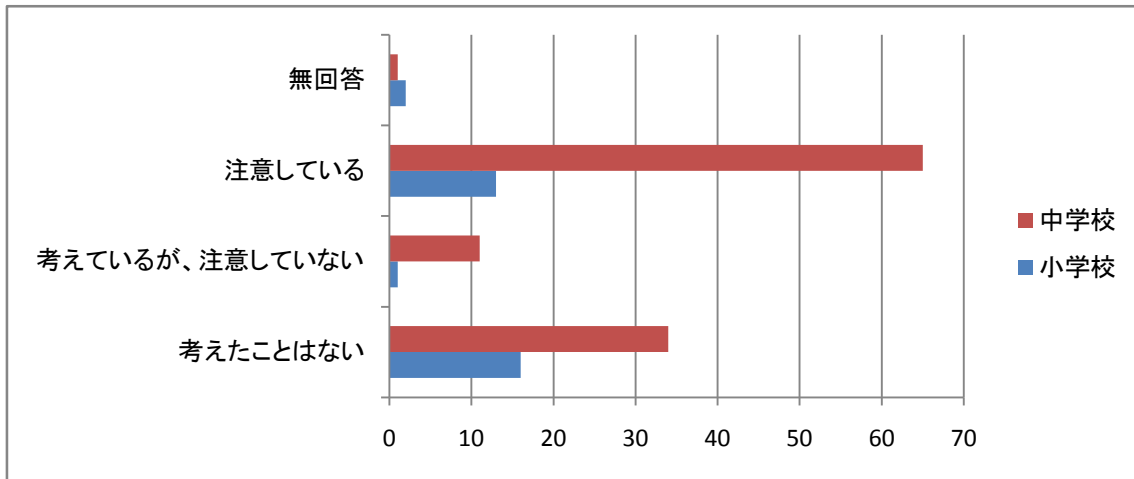
【設問4】お子さんの1ヶ月の携帯談話使用料は平均いくらですか？



<分析および考察>

小学5年生保護者の回答では、「5千円未満」の使用が96.9%（無回答を除くと100%）である。そのうち、「3千～5千円未満」が25.0%、「3千円未満」が71.9%である。中学2年生保護者では、「1万円未満」の使用が98.2%で、そのうち「5千～1万円未満」が39.6%、「3千～5千円未満」が44.1%、「3千円未満」が14.4%である。小学生では、所持率も低く、保護者の都合で持たせているといったケースも多いと考えられ、使用料の管理なども保護者の責任でされているケースが多いと考えられる。中学生になると、使用目的も広がり、使用頻度も多くなることから使用料が増える傾向があると考えられる。

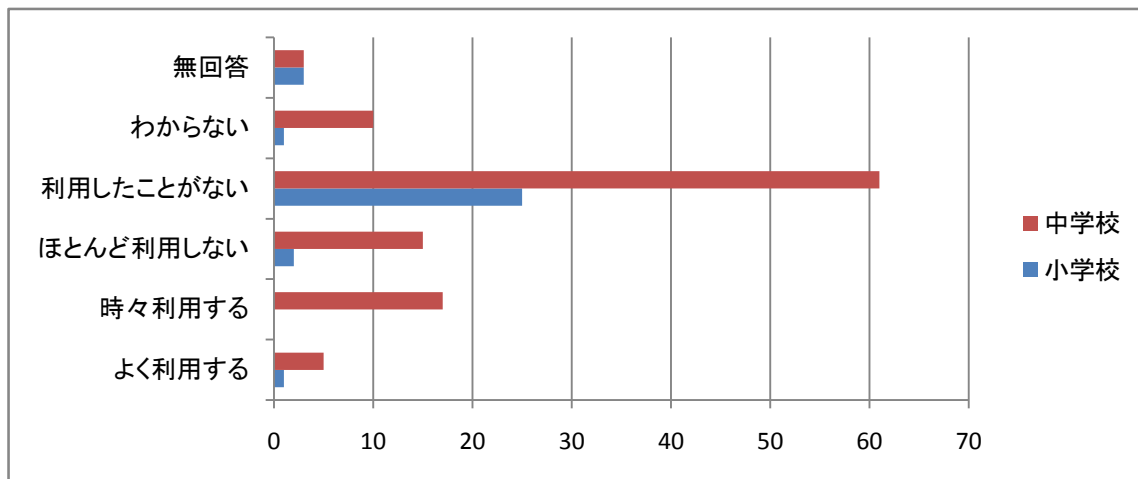
【設問5】お子さんが有害サイトを利用しているかも知れないと考えたことはありますか？



<分析および考察>

小学5年生保護者の回答では、「考えているが、注意していない」と「考えたことがない」の合計が53.1%で、「注意している」の40.6%より多い。中学2年生保護者では、「注意している」が58.6%で「考えているが、注意していない」と「考えたことがない」の合計の40.5%より多い。中学生になると、使用目的が広がり、使用頻度も多くなるので、保護者も使用に際して一定の危機感をもっていると思われるが、全体的にみると意識は低いと考えられる。

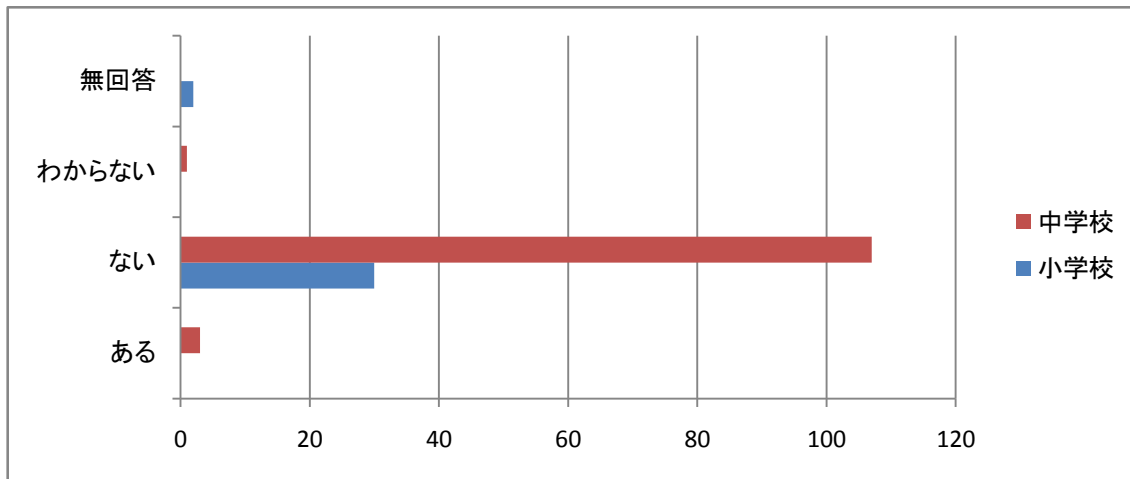
【設問6】お子さんは掲示板・ブログ・チャットを利用することがありますか？



<分析および考察>

利用経験がある(「よく利用する」と「時々利用する」を合計した数)は、小学5年生保護者の回答では3.1%で、中学2年生保護者では19.8%である。利用経験がない(「利用したことがない」と「ほとんど利用しない」を合計した数)は、小学生保護者では84.4%で、中学生保護者では68.5%である。児童・生徒のアンケート結果では、小学5年生では7.9%、中学2年生では29.8%が「利用経験がある」と回答しており、いずれも保護者のアンケート結果より高い割合になっている。こうした結果の背景には、子どもの利用状況を保護者が的確に把握しきれていないといった現状があるのではないかと考えられる。

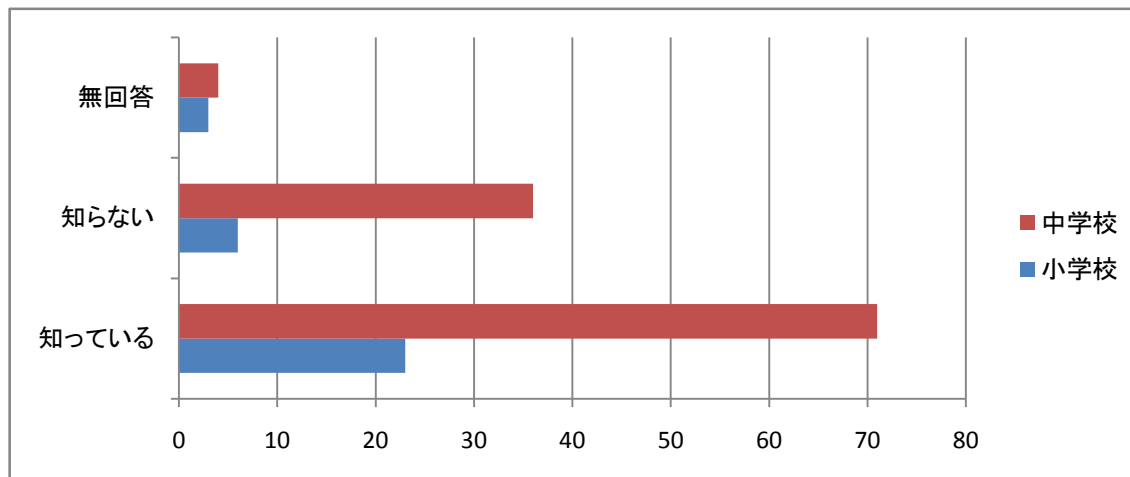
【設問7】お子さんは携帯電話を悪用したトラブルや犯罪の被害にあつたことがありますか？



<分析および考察>

被害経験が「ある」と回答したのは、中学2年生保護者では3人(2.7%)で、小学校5年生保護者では0人(0%)である。今回のアンケートでは、具体的な被害の内容等については問わなかったが、被害の発生状況は少なかった。

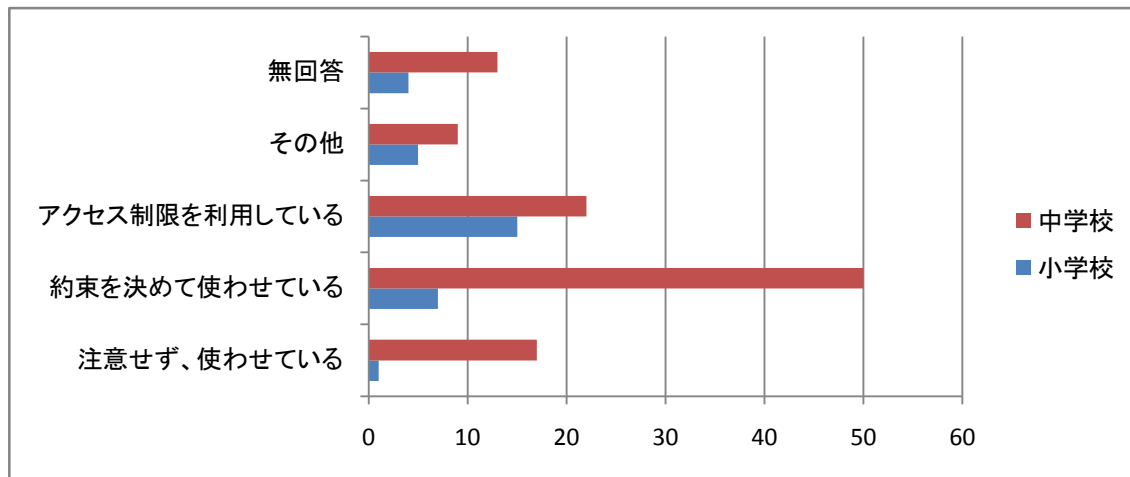
【設問8】あなたは「フィルタリング」を知っていますか？



<分析および考察>

フィルタリングの認知度の割合は、小学5年生保護者では71.9%、中学2年生保護者では64.0%である。児童・生徒のアンケート結果では、小学5年生では23.7%、中学2年生では32.1%であったことと比べると、保護者の認知度は高く、6~7割の割合でフィルタリングが認知されている。ただ、子どもと保護者の認知度のひらきがみられ、家庭の中などで保護者が子どもにフィルタリングについて認知させ切れていないといった現状があると考えられる。

【設問9】携帯電話でのインターネット等の利用についてお子さんに何らかの注意をしていますか？



<分析および考察>

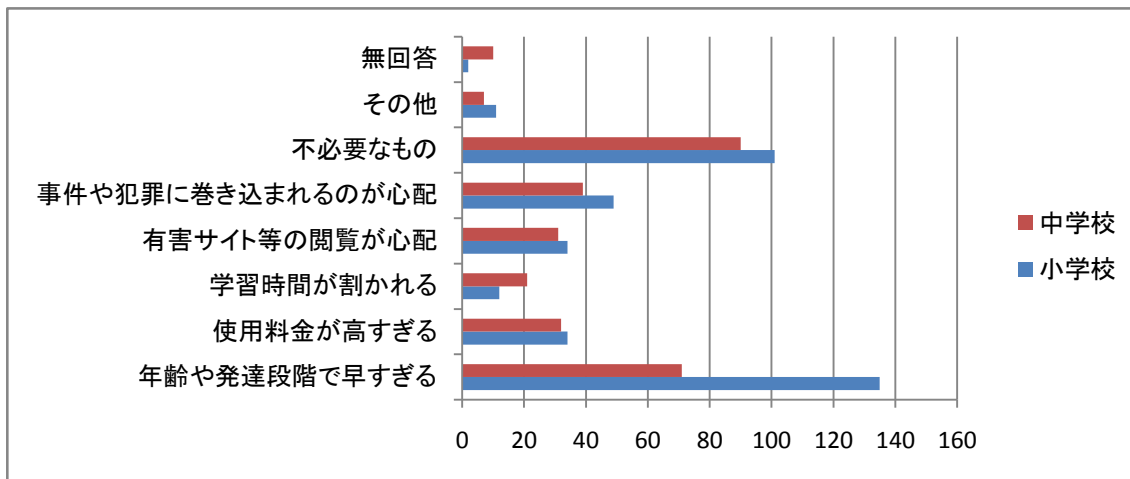
利用に際し、「アクセス制限など具体的な手だて」を講じて使用させている割合は、小学5年生保護者では46.9%、中学2年生保護者では19.8%である。具体的な手だては講じていないが、何らかの「約束を決めて」使用させている割合は、小学5年生保護者では21.9%、中学2年生保護者では45.0%である。また、中学生保護者では「注意せず」使用させている割合が15.3%である。特に、フィルタリングに関する保護者の認知度は比較的高かったが、実際には「知っているが、利用していない」といった実態がみられる。

【設問10】お子さんに携帯電話を持たせていることで、よかったことやよくなかったことは何ですか？

<別 掲>

※p24～26参照

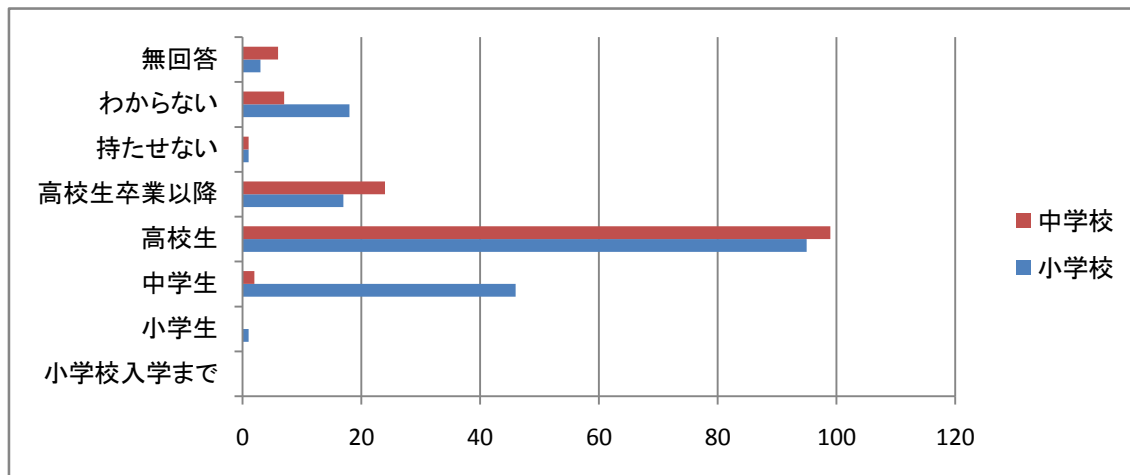
【設問11】お子さんに携帯電話を持たせていない理由は何ですか？



＜分析および考察＞

小学5年生保護者では、「早すぎる」の割合が一番高く35.7%、次に「不必要なもの」が26.7%である。中学2年生保護者では、「不必要なもの」が29.9%と高く、次に「早すぎる」が23.6%である。以下の回答についても小・中学生とも似た割合を示す結果となった。小学生保護者では「年齢や発達段階で早すぎる」と考える傾向が強く、中学生保護者では子どもの学業面等と関連づける傾向が反映されているのではないかと考えられる。

【設問12】もしお子さんに携帯電話を持たせるなら、いつ頃が適当と思いますか？



＜分析および考察＞

小・中学生の保護者とも「高校生」の割合が一番高く、小学5年生保護者では52.5%、中学2年生保護者では71.2%である。また、小学生保護者では「中学生」とする回答が25.4%と高かった。いずれの場合も、現在の在籍学校より1つ上級の学校以降での使用が望ましいと考える保護者が多いようである。